〔萬葉集抄五〕世間乎、何物爾將譬、旦開榜去師船之跡無加如、

この歌の中の五文字、古點にはあさぼらけと點せり、此詞ふるくはあさひらけといひけりとみえたり、○略中あさひらきといへる、なにのきゝにくゝ、あはざる心あれば也、あさぼらけと點したるとおぼつかなし、

〔日本釋名上時節〕旦開　朝びらけなり、仙覺が說也、あした雲のひらけ、夜のあくる也、

〔倭訓栞前編安二〕あさぼらけ　朝ぼの明の約りたる辭なるべしといへり、常に朝朗とかけり、古今集より見えたり、

〔類聚名物考時令二〕あさぼらけ　朝朗　あさぼらけとは、○略中朝朗といふ字の如し、朝ぼの明の略語かともいへり、

〔古今和歌集六冬〕やまとのくににまかれりける時に、ゆきのふりけるをみてよめる、

坂上これのり

朝ぼらけ有明の月と見るまでに吉野の里にふれる白雪

〔新撰字鏡日〕暾暐旽　同土屯反、平、日初出時也、明也、豆止女天、又阿志太、

〔類聚名義抄二日〕旦　音但　アシタ　アカツキ　ツトメテ

〔段注說文解字七上日〕旦　明也　明當作朝、下文云、朝者旦也、二字互訓、大雅板毛傳曰、旦明也、此旦引伸之義、非其本義、衞風信誓旦旦、傳曰、信誓旦旦、然謂明明然也、从日見一上一地也　易曰、明出地上得、案切、十四部、誓、

〔下學集上時節〕夙　ツト　早也

〔書言字考節用集二時候〕晨　ツト　早也　朝　夙　同　始　同　旦

〔日本釋名上時節〕夙　ツト　つとめて也、はやき意、あしたはやきを云、

〔古事記中神武〕高倉下答曰、○略中故如夢教而旦見己倉者、信有横刀、故以是横刀而獻耳、